

人権同和教育研究委員会

1 研究テーマ

人権を尊重し、あらゆる人権問題を解決する意欲と実践力を身につけた児童・生徒を育てるための指導のあり方

2 研究課題

(1) 研究授業

実施期日：平成 21 年 11 月 18 日（水） 須坂市立森上小学校

題 材 名：「敬・愛組の友だちとあそぼう」

授業学級：2 年智組（男子 15 名 女子 17 名 計 32 名）

授 業 者：伊藤史佳教諭

(2) 研究の重点

部落差別をはじめ、あらゆる人権問題の解決を目指すためには、自分を大切にしたり、友だちも大切にしたりする心を育てることが重要であると考え、そのために、「友だちとのかかわり合いを通して、お互いの人権を尊重し合えるための活動はどうあったらよいか。」を研究課題として研究を進めた。

3 指導の実際

森上小学校 2 年智組では、子どもたちがかかわり合いながら活発に意見交換し、追究を深めることによって、教科・領域のねらいが達成できる授業づくりを目指している。人とかかわり合う力を高めることは、人権同和教育が担っている課題でもある。

伊藤学級の子どもたちは、友だちが困っていると進んで助けてあげる姿が多くみられたり、クラスみんなで一緒に活動したいという意識が強かったりして、個性の強い子どもたちが多くいる中で、少しずつお互いの特性を理解し合いながら行動できるようになってきている。

その反面、全体での指示や説明では理解できなかったり、詳しい説明や個別の支援が必要だったりする子どもも多くいる。また、上手く言葉で表現できないために、つい手が出てしまったり、トラブルになってしまったりする子どももいる。

これまで、子どもたちのよりよい人間関係づくりのために特に重点をおいて指導してきたことは、友だちのよさや、悲しい思いをしていることに気づけるクラスということである。そのために、朝や帰りの会では、子どもたちのよい姿やよい場面を担当が話してあげたり、子どもたちの活動としても、設置されている「すてきな木」に友だちの素敵な姿や助けてもらった姿を書いて掲示したりといった取り組みも行ってきた。

さらに、自分の気持ちを上手に表現できるようになることを願って、姉妹学級や特別支援学級の子どもたちとの交流活動にも取り組み始めている。

そこで、「特別支援学級（敬・愛組）の友だちとの交流を通して、学級の友だちも敬・愛組の友だちもみんなが楽しみ合えて、お互いの人権を尊重し合えるためには、どのような活動を仕組んでいったらよいか。」また、「友だちの得意なことや苦手なことを認め合ったり、相手の気持ちを考えたりしながらたくさん友だちとかかわり合うことのできる学級づくりはどうあったらよいか。」を研究の柱とした。